

令和8年度 学校の教育目標

共に考え 共に行動

～主体的に考え、判断し、行動できる自律した八中生～

書：竹上広子先生

八幡浜中学校「校長だより」 No.4

校訓

誠 実 情 熱 団 結

令和8年7月17日（金）

※ 八幡浜中学校 HP

「校長だより」に掲載



自律した八中生になるために

～ 1学期終業式 式辞 より ～

4月8日の始業式では、次のことをお願いしました。

「自律した八中生」になるためのスタートは、「考える」ことです。「考える」と言っても、何をどう考えればよいのでしょうか。

私たちは、学校生活の中で、周りの人に対して、いろいろなことを言ったり、いろいろな行動をしたりしています。そのときに、「自分が言ったり、行動したりしたことによって、八中生がどんな気持ちになっているか」ということを「考える」ことが大切です。自分が言ったり行動したりすることで、「周りの八中生が、どんな気持ちになるか」を「考える」のです。そして、その行動によって、「八中生がうれしい気持ちになる」、または「八中生が悲しい気持ちになる」、どちらか判断します。「八中生がうれしい気持ちになる」のであれば、実際に行動していきますし、「悲しい気持ちになる」なら、その行動はしません。八中生一人一人が、常に、このように考え、判断し、行動することができれば、「自律した八中生」になります。

このことをお願いしました。この1学期を通して、みなさんは、「自律した八中生」であつたでしょうか。

私は、ホームページに載せる写真を撮るため、1学期中に何十回も各学級の授業の様子を見させていただきました。そこには、いつも明るく元気な八中生の姿がありました。「自律した八中生」の姿がありました。また、部活動や生徒会活動、学校行事などでも、パワー全開で生き生きと活動する「自律した八中生」の姿が、ここにもありました。

一方、友達の間で何気ない一言や行動で、嫌な気持ちになったり、悲しい気持ちになったりしている八中生の姿も見られました。自律していない八中生の言動が原因です。そんなときは、お互いの気持ちを言葉で、直接、伝え合い、対話をすることで、お互いの気持ちを理解することができます。すると、「嫌な気持ち」や「悲しい気持ち」から、「うれしい気持ち」や「楽しい気持ち」に変えていくことができます。そんな、経験をした八中生もたくさんいるのではないのでしょうか。

このように考えていくと、同じ人でも、「自律した八中生」になったり、「自律していない八中生」になったりすることがあるということです。まず、この夏休み、そして、2学期は、より多くの八中生が、「自律した八中生」になる場面が増えるよう、「自律していない八中生」になる場面が減るよう、頑張っていきましょう。これが、正に「自律した八中生」へ到達する道になります。



（文責 河野 靖）